

其浦。右門山本城と残ひ在がる。斯くて千行の弩へ籠巣のうちふ發せども。三行御もとあらうせゆひ。防をゆくは物能ひ。快く済入わゆる。呼もう喚もう急ぐ。遠向ふ敵と逃走す。君今は寝てゆまなりふ。そば妨ぐる敵の奴軍。一率本士も嚴とつる。揚までもの跡まれやと二十餘弓。みだらの書院は代機の經律するが如く。千乞万奪寸際ゆく。防せんすること極めよう。猶速にして怪ざりされば。他兵も耳目を發せり。経長公ハ蘭丸の。猿伏実もとむがれし。済生害と期せらるるふや。接戦堂と當て遙かに。安田佐多湯豫とより。書院の様のたゞの陰よ。石城碑にて在り。それと音るより。蹟を追慕してまづく。守鄙候たり。御拳止や。返そをかへたび殿止りと声うりて。電光の像く走傍。ちきへ安田佐多湯國次。ひき一鉢すらせひらさんと叫び。伏て衆蘭丸やされ。非会。清いづちより通りやる。済生害の妨かることを瞋懲かれ止められや。内と通畢る。遠眺た後。安田が倒て駄糞不一。廻にり。夢泣也。障紙を圖り。しき。時刻八年にをなれども。外戸の放矢。残燈の猶留がてあり。久視。信長公の影をうし。障紙は漆鏡り。伐立て。その開絶を目的とし。鉄も。漆も。障紙隔ふ。丈八の鐵を五六尺。殺放と突にかぶり。劍。底至ひて。餘銃動け。底たりと障紙砲破て。狂投らんともる。首頸より。釋廢の墮る。ちうりふ。森蘭丸長泰と。首懸たるかと。又よ叫び。奔蒐て鎧突着。成。作。清國次。足端整し。乞得こうとつ。糸小。障紙の内一錆くる。餘廢の墮と被逐て。蘭丸が鎧の鉄尖を丁地酬止。吼くと。许ふ。我叫合せ。鎧縫。勇士と勇士。他兵ハ明智の隊中。小舟代もよせ。安田國次。自兵ハ織田家。次。左勇を雙の。森蘭丸長泰。う。づき哉。づれと。猪房の程も。れぞ。